二〇二二年七月二二日

滝壺のマイナスイオン振りかぶる　もとこ
海見えて旅の始めの露台かな　ひのと

二〇二二年七月二一日

土用鰻食べて元気や卒寿翁　宏虎
飛び石に足跡のこし水着の子　なつき
と見る間に山霧容変へにけり　あひる
店頭の葭簀を倒す小竜巻　素秀
検温の電子音消す蝉しぐれ　せいじ
走る子の両手はつばさ青田風　ひのと
早朝の参道掃除夏つばめ　こすもす

二〇二二年七月二〇日

器量よき茄子を選びて糠漬けに　千鶴
夏休み見守り隊も夏休み　満天
山車曲がる身を捩りつつ反らしつつ　ぽんこ
研ぎたての包丁匂ふ夕立あと　ひのと
走り根の階なせる杜涼し　明日香
立ち話長くなりそう片陰へ　たか子
置き傘を持ち帰る子や夏休み　みきお
険競ふごと立ちのぼる雲の峰　きよえ

二〇二二年七月一九日

江ノ電を待つ踏切や蝉しぐれ　智恵子
大玻璃戸開けるや否や蝉時雨　こすもす
梅雨の蝶広葉の裏に翅たたみ　明日香
水のやう風のやうにも絵灯籠　素秀
大梁に手斧の疵や黴の宿　ひのと

二〇二二年七月一八日

熱つあつのお茶を啜りて暑に耐ふる　もとこ
駆け抜くる雑巾がけの跣足かな　ひのと
月にある母の俤初盆会　あひる
素振りする野球少年雲の峰　満天
谷深く入れば修験の一瀑布　澄子
かなかなや一息つける峡の空　素秀
四ツ辻に京の都を廻す鉾　たか子

二〇二二年七月一七日

山小屋のテラスへ垂るる銀河かな　智恵子
月鉾の軋む車輪や辻回し　あられ
桶の水涼しき月を映しけり　ひのと
廟の扉を開けて蓮見の茶会かな　なつき
振れば風揺らせば波や舞扇　ひのと

二〇二二年七月一六日

瀞に吹く風の涼しき川下り　素秀
乳歯抜け破顔一笑夏休み　千鶴

毎日句会みのる選・二〇二二年七月二四日